

令和5年度

子どもの学びと育ちをつなぐ ～幼小の円滑な接続を目指して～

学校教育課通信

令和6年1月18日(木) 第192号

編集・発行：県南教育事務所 笠原聡美

幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものとされています。そして、小学校では幼児期に培った資質・能力をさらに伸ばしていく必要があります。昨年度から、幼小の円滑な接続を目指し、カリキュラムや教育方法の充実・改善を図るための「幼保小の架け橋プログラム」の取組が全国で始まっています。

これまでも、幼小連携として、子どもたち同士の交流が行われてきました。しかし、そこから一步進んで幼小接続期のカリキュラム・マネジメントに組織的に取り組むことが求められています。今年度、県南地区では小学校の校長先生が時間を見つけて幼稚園に足を運んで情報を共有したり、幼小中の合同研修会において、小中学校の教員が幼稚園の保育を見て協議を行ったりするなど、幼小連携に積極的に取り組む園や学校が見られました。重点施策に関する調査の記述回答においても以下のような成果が挙げられています。各学校の教育課程編成において、幼小連携の視点で改めて計画を見直してください。

幼稚園

- ・ 今年度は、幼稚園に小、中学校の先生方に保育参観に来ていただき合同研修会を実施することができたことは幼稚園にとって大きな成果である。
- ・ 今年度は、教育課程に組み込まれていなかった6月の年長児の学校訪問を取り入れ早い段階から小学校入学を意識できるように工夫した。
- ・ 教諭が小学校の授業研究と協議に参加したことで、意見交換ができた。今後も幼小連携に向けてその機会を増やしていきたい。
- ・ 互いの情報交換を細かにしている。
- ・ 幼稚園の教育について知っていただける機会が増え双方が歩み寄れる関係性になってきたように思う。スタートカリキュラムについても話題になっているので、よりよい連携につなげたい。

小学校

- ・ 1学期に幼稚園・保育園の先生を呼んで授業公開及び意見交換をすることで互いの教育活動に生かすことができている。
- ・ 昨年度に作成した幼小連携計画をもとに、隣接幼稚園と連携しながら、小学校進学を見据えた教育活動や取組を行っている。
- ・ 日常的に幼小の教員が声を掛け合う環境にあるため、お互いに情報交換をしたり、交流活動を行ったりすることができている。
- ・ 幼稚園と相談し、教育計画に幼小連携の具体的な機会と内容を盛り込むことで、計画的に実施できている。
- ・ 幼稚園の先生方と1年生の指導について絶えず共有を図っている。



「幼保小架け橋プログラム」のねらい

- 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
- 3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
- 架け橋期に園の先生が行っている環境の構成や子どもへの関わり方に関する工夫が見える化し、家庭や地域にも普及
- 幼児期・架け橋期の教育の質保障のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進 「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」より

文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」



「架け橋期」とは？
5歳児～小学校1年生までの2年間を指します。

